

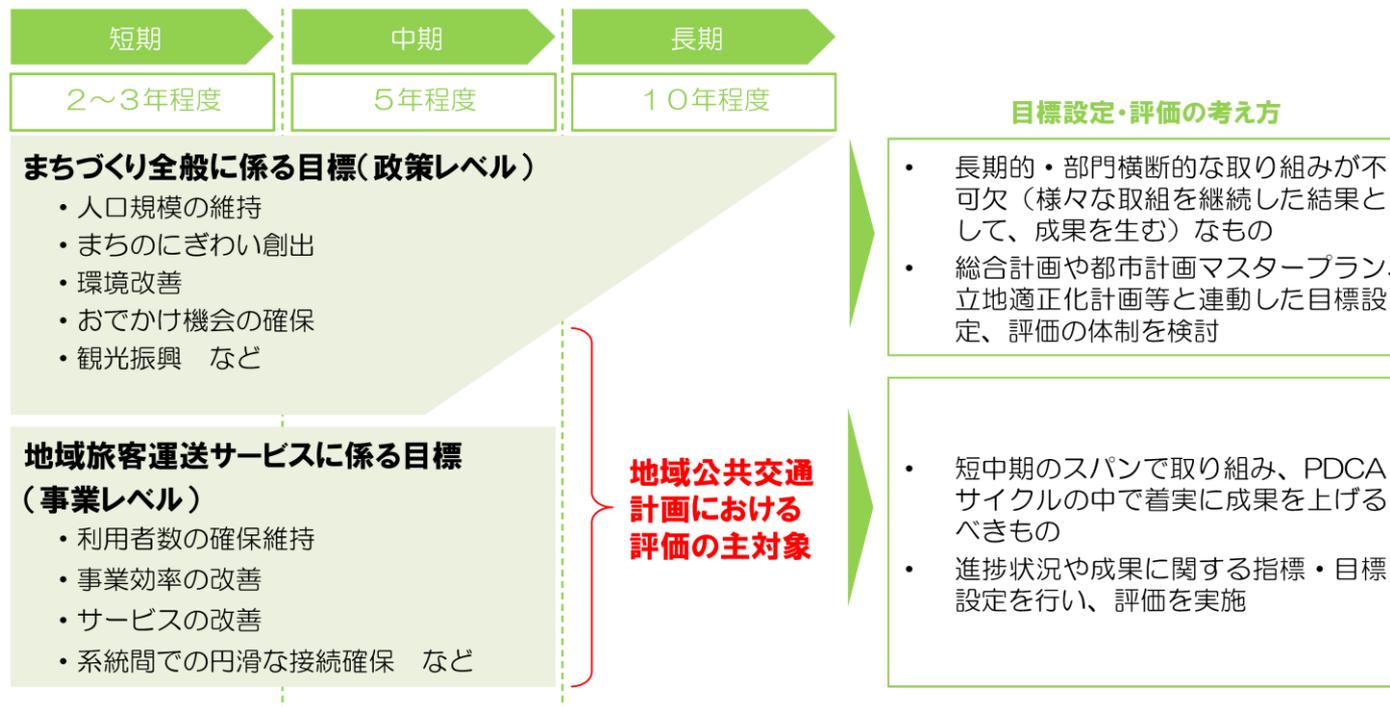
目標の検討方針

評価指標の検討

- 地域公共交通計画では、評価指標の設定が必要
 - ✓PDCAサイクル(計画→実行→確認→見直し)の繰り返しによる改善・向上
 - ✓関係者間での実態や危機感の認識共有
 - ✓実態の経年把握
 - ✓関係者のモチベーション
 - ✓数値を持った説明による議論の具体化、理解促進
- 設定する評価指標によっては、交通事業者をはじめとした関係者の協力が必要不可欠
⇒今後の検討にあたってご理解・ご協力をお願いしたい

評価指標の検討

- 評価指標を設定する目標は旅客サービスに係るものを中心にバランスよく設定
- 計画の実行を通じた社会全体が受ける効果や変化の評価が重要



▲地域公共交通計画における目標設定・評価のイメージ

評価指標の検討

■標準指標

地域公共交通計画の趣旨から見て設定する必要性が高いものであり、「住民等の公共交通の利用者数」、「公共交通の収支（収支率・収支差）」、「公共交通への公的資金投入額」の3指標が該当します。これらは基本的に全ての計画において設定することが望ましいです。

■推奨指標

「公共交通の利用頻度」や「平均輸送密度」など、交通事業との関連性が高い指標については、交通事業者や行政などの公共交通の運営側の目線から、事業の必要性や有効性を計測しやすい指標ですので、積極的に設定することをお勧めします。

■選択指標

地域の目指す姿や事業実施の目的によって設定を検討するものであり、地域の実態に合わせて適切なものを設定してください。選択指標として想定される指標の例を次ページに示していますが、表に掲載されている全ての指標を選択することが必要というわけではなく、地域の目指す姿や事業実施の目的に合致する指標を選定すれば足ります。